

私大環協ニュース

私立大学環境保全協議会

第77号 2025.1

Environmental Protection Association of Private Universities NEWS



私立大学環境保全協議会
Environmental Protection Association of Private Universities

第37回夏期研修研究会

2024
9/5木 講演会・グループ討議
6金 グループ討議・講演会
会場 金沢工業大学 扇ヶ丘キャンパス
〒921-8501 石川県野々市市扇ヶ丘7-1
<https://www.kanazawa-it.ac.jp>



9/5 プログラム	9/6 プログラム
<p>1. 開会挨拶 13:00～13:10</p> <p>2. 開催校挨拶 13:10～13:20</p> <p>3. 研修講演 13:20～14:10</p> <p>「被災地調査から得られた知見と E-ディフェンスを活用した今後の展望」 防災科学技術研究所 地震減災実験研究部門 西 綾汰 ◇休憩・デモ展示 (20分)◇</p> <p>4. 事例報告 14:30～15:20</p> <p>「コレクティブインパクトの創出を目指した金沢工業大学 SDGs 推進センターの取り組み」 金沢工業大学 SDGs 推進センター 所長 教授 平本哲太郎 ◇休憩・デモ展示 (20分)◇</p> <p>5. グループ討議 15:40～17:10</p> <p>I: 「SDGsの実現に向けた学生と地域の連携に大学が果たす役割を考える」</p> <p>II: 「新たな化学物質規制体系に向けた対応について」</p> <p>III: 「大学施設で実現可能な ZEB 化改修について」</p> <p>6. 情報交換会 17:30～19:00</p>	<p>1. グループ討議 9:30～11:00 前日から引き続いて討議を行います。 ◇移動・休憩 (20分)◇</p> <p>2. 特別講演 11:20～12:10</p> <p>「再生可能エネルギーと電力・エネルギーの地産地消」 金沢工業大学 工学部電気電子工学科 教授 泉井 良夫</p> <p>3. 講演総括 12:10～12:20</p> <p>4. キャンパス見学会 13:20～14:20</p> <p>・講演会は、オンサイトのほか、オンライン (Zoom ライブ配信)、オンデマンドのハイブリッド形式を予定します。 ・グループ討議は、オンサイトのみを予定します。 ・また、オンサイトではデモ展示やキャンパス見学会、情報交換会も予定します。ご都合の良い形式でご参加ください。</p> <p>研修研究会に関する最新の情報やお申し込みは以下、ホームページをご覧ください。 https://www.shidaikankyo.jp/</p> <p>当協議会は2024年に40周年を迎えました。3月に開催した40周年記念式典を受け、今後、記念誌・会誌第32号の発行を予定しています。</p>



研修研究会 会場 (金沢工業大学扇ヶ丘キャンパス)



講演会場の様子



グループ討議 I 会場の様子

CONTENTS

環境ニュース ● (株)ハチオウ 星野 祐子さんインタビュー 2

会員校紹介 ● 九州医療科学大学 4

会員校紹介 ● 日本女子大学 5

賛助会員紹介 ● ダイキン工業株式会社 6

賛助会員紹介 ● Newtonプラス株式会社 7

コラム、事務局だより 8

株式会社ハチオウ お客様本部 営業1部 担当部長 営業サポート部 部長 星野 祐子さん インタビュー



生き物が集う“自然”を ノスタルジーにはしたくない。

「膨れあがった薄桃色の巨大な綿花が、青い光にふちどられて宙に浮いているように見えた。ぼろぼろ、ぼろぼろ減っていくなめかしい生きものにも思えるのだった」

芥川賞作家である宮本輝の作品『夜桜』の一節です。彼の作品には、長い歳月をかけて作り上げられた自然の美しさが数多く描写されています。それは読み手に、大地を守る自然の尊さを訴えかけます。私立大学環境保全協議会のグループコーディネーターの一員として活動し、化学薬品や廃液の処理を行っている株式会社ハチオウで働く星野祐子さんも、宮本作品に魅了され、「鳥や昆虫、そして様々な動物を集める豊かな自然を守りたい」と思う一人です。環境保全に関心を持ったきっかけを次のように懐古します。

「私が生まれ育った土地は、新潟県のお米の産地で、のどかな田園が遊び場でした。辺りを見渡せば、山々に囲まれていて、多くの清流が流れていました。季節によって繊細に移ろう自然の表情は、特別でなく、日常の光景だった。だから、小学高学年の社会科の授業で公害問題について学んだり、国語の授業で足尾鉞毒事件の解決に尽力した田中正造の伝記を読んだりするなか



ふるさと新潟の雪景色



魚沼産コシヒカリ

で、人間の暴走によってヒトがヒトを蝕み、また自然が破壊されたことへの嫌悪感というのかな。当たり前が失われることに対する恐怖感というのかな。そういう感情から自然の温かみを大切にしないといけないという気持ちが芽生えて、時間とともに少しずつ醸成されていったのだと思います」

大学は国文科に進学し、古代から近現代まで幅広い文学作品と向

き合った星野さん。その一方で、環境に貢献できる仕事に関わりたという気持ちはずっと残っていたと言います。ハチオウへの新卒入社もそうした思いからだったそうですが、内定を告げると父親からは反対されたと言います。

「就職氷河期世代なので就職先が決まっただけでも嬉しかったのですが、父親に営業職と伝えたら『女性なのに営業なんてさせるのか？』って(笑)」

それでも星野さんはハチオウへの入社を決めます。その理由について、こう話します。

「自然環境に関わる仕事だったのはもちろんですが、創業者の森雅宜(現社長・森雅裕の父親)と奥様(当時、専務)の二人の和やかな雰囲気とか、職場の空気感、居心地の良さなどに惹かれました。でも一番の決め手は、ハチオウの社風に共感できたから。というのも、私が好きな古典文学で一節に平家物語の『驕れる人も久しからず』があります。自信と謙虚の調和の重要性を説いていますが、実は同社の経営理念の『五訓』のひとつに『おかげさまでという謙虚な心』があります。これは、もともと東京下町の伝統工芸の職人社会で育った森雅宜が大切にしてきた一個人としての姿勢なのですが、ここに私は強いシンパシーを覚えました」

父親を説得してから今年で29年目。「子供たちや孫たちの世代に負の遺産を引き渡さないという会社の環境への思いに賛同できているからこそ、ずっと働き続けられているんだと思います」と星野さんは、懐かしそうに顔をほころばせます。

思考停止だった若手社員時代！ 想像力を働かした一歩先の提案を心掛ける

星野さんが勤めているハチオウは、東京を拠点に化学系廃棄物を中心とした産業廃棄物の処理・リサイクルをメイン事業に据えた創業55年の会社です。他社では処理が難し



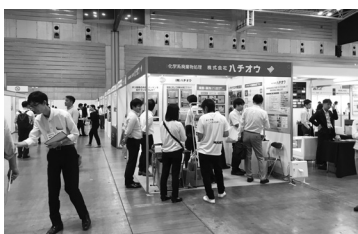
西東京事業所(八王子工場)

い化学薬品や廃液の処理を専門にしているのが、同社の強みと言えます。取引先は公官庁、企業、教育機関と幅広く、最

近では、産業廃棄物の排出源管理から資源化までを総合的に包括したCRMS(Chemical waste Risk Management Support)事業に特に力を入れています。

ハチオウに新卒で入社した星野さんのキャリアは営業からスタートします。その後、営業事務、CRMSなどを経て、現在は営業と営業事務の部長として会社をけん引しています。応接室に飾られた全社員の顔写真が載ったポスターに目を向けて「20代の若い社員が多いんです」と呟いた星野さんは、管理職の面白さを語ってくれました。

「以前関わっていたイベントに、ユーザーとメーカーをつなぐ情報交流・展示会『ケミカルマテリアルJapan』があります。私はここを育成の場として活用していました。出展内容の企画立案から当日のブース案内まで若手社員に任せていました。初めて担当するときこちないのですが、それでも『当社のホームページにリンクするQRコードをウェットティッシュのパッケージに印刷したらどうか』とか、『不織布の袋とブース全体の色や文字レイアウトを統一しよう』とか、色々なアイデアを提案してくれます。2年目、3年目となってくると、できることが増えて心に余裕が生まれるのか、後輩を引っ張る頼もしい先輩が変わっていたりもする。伸びしろのあるキラキラした若手社員がどんどん成長していく姿を見るのが、今の仕事の楽しみになっています。もう、完全に母親が子どもを見守っている感覚です(笑)」



ケミカルマテリアルJapan

続けて、管理職としての心構えをこう話します。

「年々、ジェネレーションギャップが大きくなるので距離感を掴むまでに1年近くかかってしまいますし、今も暗中模索してばかりですが、がちがちに管理するのではなく、社員それぞれが持っている個性や長所は何なのか。彼ら・彼女らの仕事振りを観察し、それらを発揮してもらってチーム力が最大化するような環境づくりを心掛けています」

やっと会社が果たす社会への貢献やお客様のことを考えられるようになってきたと謙遜する星野さんですが、それもこれも半人前だった頃に「営業とは何ぞや」と考える苦い体験があったからだそうです。

「ある廃棄物処分場の設備の閉鎖に伴って廃棄物が搬入できなくなったことがあるのですが、代替案を提示せず閉鎖の情報だけをお客様に伝えてしまったのです。『営業としての自覚があるのか!』。冷たく突き放された感じがしてショックでした。けれども、お客様も営業職で、エンドユーザーに説明しないといけないう立場でしたから、私の軽率な発言が結果として関係者全員を困らせてしまった。直接やり取りをしているお客様だけでなく、その先にいる顔の見えないお客様も配慮しての営業だなと考え

させられました。当時は悔しかったり、悲しかったりしましたが、あのようにつけてくれた人がいたことに感謝しかないですね」

今では、最新鋭の掃除機等を見ながら、「これ、分別しにくそうだな」、電池が埋め込まれた子ども用の玩具を手にとって、「どうやって解体するのか」と、処理の事まで想像力を働かせてしまうと言います。そんな星野さんは、今では採用活動の仕事も担うようになったそうです。これまで磨いてきた観察眼を持って、どんなエネルギーを持った人材をハチオウに取り込むのか。楽しみで仕方ありません。

海外研修から始まったご縁 コーディネーターとしてバックアップ

星野さんが入社した当時、ハチオウはすでに私大環境保全の賛助会員だったそうです。早稲田大学の営業担当になってから、星野さんと私立大学環境保全協議会との距離は近くなっていったと言います。

「私大環協さんとのご縁は、2007年の第7回海外研修に参加したのがきっかけですね。1週間ほどかけてタイとベトナムを訪問し、現地での環境問題の取り組みや復元されたマングローブを視察したり、歴史や文化に触れたりしました。そこから総会・研修研究会にも参加するようになりましたね。地方で開催されるとちょっとした旅行気分も味わえますし、毎回、会員の方たちに会ってお話をするのも楽しみです」

現在、グループ討議「教育と連携(IGグループ)」のグループコーディネーターの一員でもあります。

「大学の教職員や賛助会員のほか、学生が参加している唯一のグループでもあります。学生が取り組んでいる環境活動、大学での環境教育や取り組みなど、毎回、様々なテーマで、30人くらいのメンバーと、話題提供や意見交換をしています。私大環協から持ち帰った研究、取り組み、そして視点は刺激を受けることが多いので、営業ツールとして仕事の現場でも情報共有させて頂いています(笑)」

環境保全と聞くと難しいと思いがちですが、環境への活動や研究を伝聞することも、環境保全の一つだと気づかされます。



広島県 厳島神社

編集後記

新潟県にあるNPO法人に加入していますが、「完全に幽霊部員なんです」と照れ笑う星野さん。趣味は読書で、古典では『平家物語』、現代作家では宮本輝の作品が愛読書。宮本輝の作品では、青春群像劇の『青が散る』がおすすめ。クラシックや吹奏楽の音楽鑑賞や旅行も好きで、最近では広島県の厳島神社や原爆ドームを訪れたそうです。

会員校紹介

このページでは毎回、会員である大学の環境問題への取り組みを紹介していきます。

九州医療科学大学



校舎

大学紹介

本学は「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」という建学の理念のもと1999年に宮崎県延岡市との公私協力方式により九州保健福祉大学という名称で開学しました。社会福祉学部・保健科学部の2学部6学科でスタートしましたが、現在は通信教育部を含め5学部6学科3研究科を有する大学として、多様なニーズに対応できる人材を養成しています。また、開学25周年を迎えた2024年4月に大学名を「九州医療科学大学」に変更。同時にスポーツ健康福祉学科に「救急救命士」を養成

する「救急救命コース」、通信教育部に通信と通学を併用できる「ハイブリッドコース」を開設し、地域・医療・生命科学に特化した医療系総合大学として新たにスタートいたしました。



延岡市より寄贈された救急車2台

環境への取り組み

本学では、学生・教職員ともにごみの分別を徹底しています。延岡市の「ごみだしルールブック」や「地区別ごみカレンダー」を学内に設置し、学生のごみ分別意識の向上を図っています。

本学敷地内の「青春の散歩道」には歌人若山牧水の歌碑17基が設置されており、例年、学生たちが清掃活動を行っています。

昨年度は、社会貢献の一環として株式会社九電工の皆様にも清掃活動にご協力いただきました。さらに、2024年8月の台風10号が九州北部に大きな被害をもたらした際には本学サーフィン部が日向市のお倉ヶ浜ビーチクリーン活動に参加し、流木や漂着ゴミの清掃を行いました。

また、クールビズ期間中のエアコンの効率的な運用や、照明のLED化などの省エネ対策を推進。大学周辺の草刈りも実施し、自然豊かな環境で学生が快適に学べるような整備を行っています。

地域とのつながり

地域の課題について体験を通して学ぶ「日向国地域体験学習」を開講しています。この体験学習では、茶摘みや地引網体験などを通じて、自然豊かな地域の魅力を体験しながら、地域の課題発見・問題解決能力を育成します。地域の自然や伝統文化に触れ、地域の方との交流を深めることで、コミュニケーション能力など人間性も養います。



地引網体験の様子

ボランティアセンターとボランティア活動

本学は2001年9月に順正学園ボランティアセンターを設立し、ボランティア活動に関心を持つ学生に対して、適切な情報や機会を提供しています。専任スタッフが常駐し、ボランティア活動に関する相談対応や情報提供を行うほか、延岡市社会福祉協議会やNPO団体などと連携し、地域の活動を支援しています。

主に、地域イベントでの会場設置や場内清掃、障害者支援施設での体育祭準備や片付けの補助、子育て支援イベントの補助、環境保全活動として五ヶ瀬川堤防上にある200本の桜に腐葉土を施肥する活動などを行っています。また選択科目に「ボランティア活動」を設け、ボランティア活動の意義と意味について理解し、一人ひとりが身近なことから社会的課題を考えて主体的に取り組むことができるような学びも準備しています。

日本女子大学

大学紹介

本学は、日本初の組織的な女子高等教育機関として創立し、2021年に120周年を迎えました。私立女子大学唯一の理学部を有し、文理融合の教育環境をもつ女子総合大学です。2021年にキャンパスを統合して以来、学部学科再編を進めており、2023年には「国際文化学部」、本年度は「建築デザイン学部」を開設しました。さらに、2025年度は「食科学部」、2027年には「経済学部(仮称・構想中)」の開設を予定しています。全学部15学科が1つのキャンパスに集うことにより、学部学科の垣根を超える多彩な学びが広がり、新たな価値を創造できる人材を育てています。

「私が動く、世界がひらく。」のタグラインのもと、“当たり前”に縛られることなく、挑戦できる知性、“ひるまず”声を上げる勇気、“誰とでも手を取り、補い合える協調性”を学生が自ら実践し、身につけ、成長できる機会を提供しています。

環境への取組みについて

持続可能なキャンパス運営を目指し、エネルギー効率向上や資源保護に取り組んでいます。新築および既存の建物においては、省エネルギー型の空調システムの導入や改修により、エネルギー使用量の削減を実現しています。また、キャンパス内の照明のLED化が進められ、電力消費の大幅な削減が図られています。さらに、建築設計に自然光や庇を効果的に取り入れる工夫を施し、日中の人工照明の需要や日射負荷を抑えています。

水資源の保護にも細心の注意を払い、トイレや洗面所は順次節水型の器具に更新し、水の使用量削減に貢献しています。また、冷水器も各所に設置し、ペットボトルの削減に取り組んでいます。



SDGs Oasis



目白キャンパス

リサイクル資源で制作された什器で配置された学生サービススペースである「SDGs Oasis」を整備するなど、総合的かつ具体的な取り組みを通じて持続可能な未来を目指しています。これからも環境に優しいキャンパス作りを続け、社会全体の持続可能性に貢献していきます。

SDGsの取組みについて

「地域社会への貢献」と「実践的な学生教育の場を提供する」という、二つの大きな役割を担うため、2020年4月に社会連携教育センターを新設し



イベント風景

ました。この「地域社会への貢献」の中に「SDGsへの取り組みと発信」が位置付けられています。

2021年度より「SDGs特設サイト」を開設し、本学教員のSDGsに関連した特色のある研究や社会連携活動を取り上げ、情報発信を行っています。2023年度末時点で30の記事を掲載しており、2024年度は学校法人事務局におけるSDGsの取り組みについても取り上げていく予定です。また、正課外のイベントとして、「企業とSDGs」をテーマに、企業におけるSDGsや地域活性化の取り組みを学生に紹介しながら、学生と一緒に持続可能な社会の成長・発展について考えていく講座等を開催しています。

賛助会員紹介

ダイキン工業株式会社



会社概要

社名 ダイキン工業株式会社
創業 大正13年10月25日
設立 昭和9年2月11日
代表者 取締役社長兼COO 竹中直文
資本金 850億円
従業員 単独7654名・連結98162名
本社 大阪府大阪市北区梅田1-13-1大阪梅田ツインタワーズ・サウス
支社 東京都中央区八重洲2-2-1東京ミッドタウン八重洲
八重洲セントラルタワー



- 子会社数 349社 (国内31社・海外318社)
- 事業展開 175ヶ国 ■ 生産拠点 125ヶ所 ■ 研究開発拠点 53ヶ所 (2024年3月末現在)

主要事業

- 空調
環境性と快適性の両立を追求し、世界中のあらゆる空調ニーズに応える製品・サービスを提供し続けます。
主な事業分野 住宅用空調、業務用空調、エアフィルタ、空気清浄機、暖房・給湯、空調システム、冷凍冷蔵機
- 化学
フッ素化学の特長を生かし、幅広い分野に貢献します。
主な事業分野 半導体分野、自動車分野、情報通信分野
- 油機・特機事業・電子システム
独自の油圧技術や精密加工技術、ITソリューションで幅広い産業に貢献します。
主な事業分野 工作機械、在宅医療機器、ITソリューション

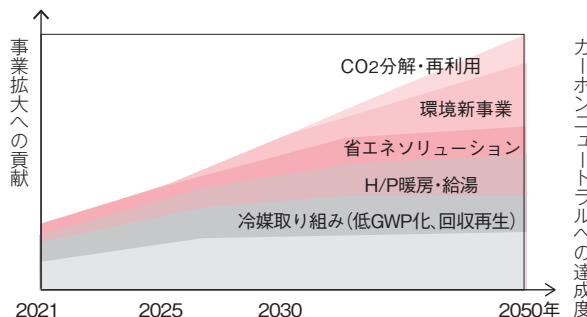
事業活動における環境に対する取り組み

CO2実質排出量（GHG排出量から排出削減策貢献量を引いたものとして定義）を2025年に30%以上、2030年に50%以上削減し、2050年にはゼロをめざす

- ・ 国際エネルギー機関が「エアコンの需要は今後30年で3倍になる」と予測しており（2018）、当社は空調リーディングカンパニーとして、空調業界の脱炭素化を牽引していきます。
- ・ 製品ライフサイクル（開発・生産～使用～廃棄）におけるCO2排出量から、ライフサイクル以外でのCO2排出削減貢献量を差し引いたCO2実質排出量を削減していきます。
- ・ インバータ化や冷媒の低GWP化に加え、ヒートポンプ暖房・給湯、省エネソリューション、冷媒回収再生などに事業として取り組むことでCO2、実質排出量を削減しながら将来にわたり事業を拡大していきます。

■カーボンニュートラルに向けた6つの具体的な取り組み

- ・ 製品使用時における消費電力削減
- ・ ヒートポンプ暖房・給湯の事業拡大
- ・ 空調事業を支える冷媒に関する取り組み
- ・ モノづくり（開発・生産）、オフィス等でのGHG排出削減
- ・ カーボンニュートラル社会を見据えた新事業への挑戦
- ・ サーキュラーエコノミーへの取り組み

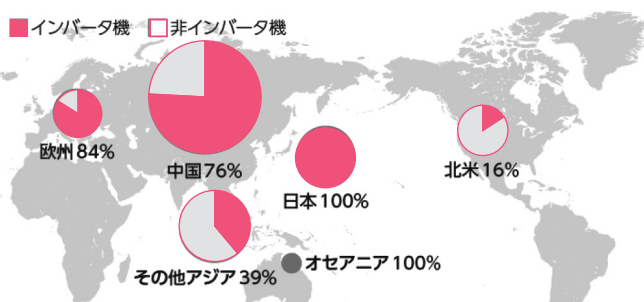


空調機メーカーとして環境への負荷を抑えた商品を製造・販売するだけでなく、世界中に普及させるための仕組みづくりに取り組むことで気候変動に対応し続ける

■インバータ機の普及促進と低温暖化冷媒の普及促進

- ・ 省エネ性の高いインバータ機を世界に広く普及させることで、エアコン使用時の電力消費によるCO2排出量の削減をめざします。
- ・ 当社は2012年に低温暖化冷媒R32を使用したルームエアコンを世界で初めて発売しました。また、R32を使用した機器の特許権不行使を宣言し、世界中でのR32の活用を開放、地球温暖化抑制を後押ししております。

世界の住宅用エアコンのインバータ機比率(2018年)



電気を使わない自動ドア ニュートン



2024年4月23日に発表された「第10回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」にて、最優秀賞を受賞

レジリエンスアワード「選んで、しるやから、選んで、しる」をテーマに、災害・人・環境づくりに資する活動、技術・製品開発などを実施している企業や団体を対象、表彰する制度

安全・安心な自動ドアニュートンの特徴

- ① 電気を使わない(人の重さでドアが開く)
- ② 停電でもドアが動く
- ③ 駆け込み・挟まれ事故が起こらない
- ④ 故障無し(ドアが開閉しない=故障)
- ⑤ 電動ドアより維持費用が安い

導入実績



実績: 高速道路、数多くの自治体庁舎、防災施設、病院・大学・店舗等

ニュートン 人気のひみつ



荷重 物体に働く力のこと。ニュートンは重さを利用してドアが開く構造。

このようなお悩みはございませんか?

- 既存ドアの交換
 - 自動ドアの安全対策
 - 電動ドア維持費用
 - 災害・停電対策
 - 具体的なSDGs実践
 - バリアフリー対策
 - オートロックの停電時セキュリティ対策
 - 仕組みが気になる
- 当てはまる方は是非、下記ホームページをご覧ください。

【製造・総販売元】

Newtonプラス株式会社
東京都台東区上野1丁目16番12号 全登ビル 5階
TEL:03-6659-3800 <https://newton-plus.co.jp/>
ニュートンプラス 検索



メリット① 停電でも動く → 災害・停電に強い

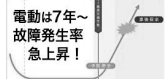
大地震、台風、火事など災害発生! 停電時、電動ドアで起こる事

- ドアが重く開かない → 閉じ込められパニックに
- ドアを開けっ放し → 暖気、冷気が逃げてしまう
- 通行の度に、開け閉め → ドアに人が張り付きになる

ニュートンなら災害(停電)時でも稼働

メリット④ 電動ドアより維持費用(ランニングコスト)が安い

電動ドア: 7年経過で故障発生率は急上昇
10年以上経過で維持費用およそ150万円以上



ニュートンの定期メンテナンス(※プラン要ご相談)
プランの1例: 10年で5回実施、部品代も込み、18万円(税抜き)

急な出費が無く、維持費用が安い、予算計画も安定

メリット② 駆け込み・挟まれ事故ゼロ → 安全・安心な構造

電動ドアの事故: 4年間で500件以上

- 9歳以下: 引き込まれ、指詰め60歳以上: 骨折
- センサー誤作動・故障・人の動きが主な原因



JIS規格に基づく開閉試験(NEXCO)実施済み
高速道路での設置で安全対策・無事故も実証済み

メリット⑤ ニュートンの導入で、SDGsの具体的な実践を表現

ニュートンを導入 → SDGsの具体的な実践に!



SDGsの積極的な取り組みは、下記のようなメリットに

- 企業イメージアップ
- 対外的なアピール、各メディアを通した大きな宣伝効果
- 競合他社との差別化 → 競争性優位性を築ける
- サステナブルな企業イメージ
- 若い世代の興味関心を引き豊富な知識や高い能力を持つ優秀な人材が集まりやすい

メリット③ 故障が無い → ドアが開閉しなくなる事がない

自動ドアの「故障」= ドアが開閉しない(動かない)

ニュートンなら電気不要、機械式(からくり)構造なので
ドアが開閉しなくなる事がない → 故障が無い

※ 通常の使用方法に限る

電動ドアと比べ、ニュートンなら故障が無い

※ 部品等の摩耗は生じるので定期メンテナンスは必要

※ メリット⑥ オートロックドア停電時のセキュリティ対策

電気を使わない自動ドアですが…
オートロック機能もオプションで可能です(仕様はお打合せにて)



オートロック(電磁錠) + 通常の鍵

オートロック機能(電磁錠)を追加すると、入退管理ができるのでセキュリティが必要な場所にピッタリです。停電時、電動ドアは使えなくなりますが、ニュートンなら停電時も自動ドアとして使えます。停電でも普通の鍵を付けておけばハッチリ。

停電時のセキュリティ対策が取れて、
セキュリティ会社とも連携可能

コラム

その窓小さくないですか？

ほぼウォーキングのようなジョギングをしながら街を眺めていると、最近の住宅は窓が小さくなっていると感じる。元々日本では南側彩光を好む傾向が強く、北面の窓は小さかったのだが、他の面も小さめな窓が多くなっている。これは住宅のコスト削減が大きな要素と考えられるが、脱炭素社会の実現に向けての政策も影響している様である。

住宅の壁材とサッシを単位面積あたりで比較すると、一般的には工事費はサッシが高く、断熱性能は壁が優れている。窓面積が少ないと断熱性能が上がりエネルギー消費量が減少し、また安定した室内環境を維持しやすくなるメリットもある。地球温暖化で冷房設備の必要性が増している事や、発熱量と消費電力が少ないLED照明の普及もあり、窓の機能的位置付けが変わってきている。極端な話をすれば窓のない部屋であればコストは少なくて済むが、法律的に住宅では窓の設置が義務付けられている。

建築基準法では自然光による居室の有効採光面積の割合が決められているが、照明による照度を確保することでの緩和が住宅部門で行われた。省エネ法の改正に適應するためのものであり、窓を少な

くする事で温室効果ガスの削減を図ろうとしている訳である。建築基準法は昭和25年に施行されたが、当時は自然光による明るさや防湿などの観点から採光規定が定められた。その後の照明・空調換気設備技術、断熱材や内外装材の進歩によって、良好な室内環境を確保できることが緩和に結びついた様である。施行時期が2023年4月1日なので建設事業への影響はまだ少なく、世の中の流れはコスト削減が主と思われるが、今後は省エネ住宅の普及や既存住宅の改修の多様化が進むかなと想像する。

窓が小さくなる事は時代の要請だと思っはいるが、明るい日差しを受け、外を眺めるのは気持ちを豊かにするし、照明がなくても昼間は困らない。やっぱり窓はあった方が良いし大きい方が良いと思う人が多いのではないだろうか。倉庫かと思うほど窓の少ない北側ファサードの住宅を見ると、建築デザインとして如何なものかとも感じている。

私立大学環境保全協議会 名誉会員 矢ノ目 優
(元慶應義塾大学 職員)

事務局だより

第41回 総会・研修研究会ご案内

【会場】慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322
TEL 0466-49-3405



【プログラム概要】

【第1日】2025年3月13日(木)

<総会> 13:00~13:30
<研修研究会> 13:30~17:20
(情報交換会 17:30~19:00)

1. 開会挨拶
2. 開催校挨拶
3. 特別講演「カーボンニュートラルに向かう世界の動向」
慶應義塾大学 環境情報学部 特別招聘准教授 有野 洋輔
4. 研修講演「環境省の脱炭素と慶應大学SFCでの取組について」
慶應義塾大学 環境情報学部 准教授 和田 直樹
5. グループ討議
※Ⅰ～Ⅲグループから一つ選択してご参加ください。

Ⅰ：教育と連携

「生物多様性の保全に向けた大学と地域の連携①」

—生物多様性保全の重要性—

今回からSDGsの実現に向け大学・学生・地域が一体となった生物多様性の維持や保護活動を考えます。

1回目はアフリカ・ケニアの生物多様性・環境保護と観光など人間活動との両立について学び、意見交換します。

Ⅱ：化学物質

「新たな化学物質規制体系に向けた対応について」

前回までのグループ討議で取り上げた、化学物質規制体系の見直しについて、新たな情報等をもとに、複数のグループに分かれて、テーマに応じた意見交換などを行うことを予定しています。

Ⅲ：施設・設備

「大学施設で実現可能なZEB化改修について(実践編)」

既存施設のZEB化改修計画の実践編として具体的な事例を交えて討議・意見交換を行います。また、TCFDの取り組み、新冷媒(R32)への移行などについて情報提供も行う予定です。

6. 情報交換会

【第2日】2025年3月14日(金)

<研修研究会> 9:30~12:20
(キャンパス見学 12:30~13:30)

1. グループ討議
※前日より引き続き討議を行います。
2. 話題提供「多様化する大学の環境安全」
大学等環境安全協議会 会長 大島 義人
3. 閉会挨拶
4. キャンパス見学

【特別企画：保護具着用管理責任者講習会】

2025年3月12日(水)午後、3月13日(木)午前

(計6時間・受講証発行)

2024年より化学物質リスクアセスメントの結果に基づく措置として保護具を使用させるときには保護具着用管理責任者の選任が義務となりました。特別企画として、保護具着用管理責任者が受講すべき法定教育の講習会を開催します。

詳細は、メールにてご連絡しております開催案内をご参照ください。プログラムは変更となる可能性がありますので、最新の情報を協議会ホームページにてご確認ください。なお、講演会来場者への資料配布は行いませんので、事前配信資料をご利用ください。

私大環協ニュース

第77号 2025年1月発行

発行・編集



私立大学環境保全協議会
Environmental Protection Association of Private Universities

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学環境保全センター内

TEL & FAX 03-5273-9605

印刷 (株)研恒社



第38回夏期研修研究会は2025年8月28日(木)、29日(金)に同志社大学にて開催を予定しております。